

協力隊まつり 2024 出展報告書

開催日時 4月20(土)～4月21日(日)

開催時間 10:00～17:00

会場：JICA 市ヶ谷ビル地球ひろば

協力隊まつり 2024

JICA 海外協力隊を広く一般の方々に身近に感じ、さらに国際協力に興味を持ってもらうことを目的として、「協力隊まつり」をリアル・オンライン開催します。

ボランティア経験者の協力隊活動報告、赴任国に関するお話、帰国後の進路話、協力隊応募相談、協力隊経験者と話そう等のセミナー、ワークショップ、動画、歌、音楽等を Zoom ミーティングで行います。

参加することで、JICA 海外協力隊を身近に感じてもらい、若い人々や一般の方々へ向けて楽しさや面白さを通じて国際協力の魅力をお伝えします。

* 実行委員会について *

『「協力隊まつり」実行委員会』は平成 26 年(2014 年)12 月に結成された青年海外協力隊 OBOG で構成される手弁当の任意団体です。この団体は、青年海外協力隊 (JOCV) が 1965 年 (昭和 40 年) 4 月 20 日に結成されたことを踏まえて「協力隊の日」を祝う「協力隊まつり」を開催することにより、帰国隊員の意識を継続してネットワーク強化を図り JICA ボランティア事業のさらなる啓発・広報を踏まえたボランティアの募集拡大、並びに国民の JICA ボランティア事業の理解への一翼を担うことを目的としています。2020 年に新型コロナウイルス感染が発生したことにより、2020 年度 /21 年度はオンライン、22 年度・23 年度はオンライン&リアル開催をしました。2024 年度もリアル&オンラインで開催します。<出典：[協力隊まつり 2024 | 協力隊まつり \(jocvmatsuri.online\)](https://jocvmatsuri.online/)>

アフリカ理解プロジェクトの出展内容

アフリカ理解プロジェクトは「協力隊まつり」2 日間にわたり、2010 年から取り組むアフリカ生産者支援をまとめた、新刊『アフリカでアーティスト&アーティザンと私たちがモノづくりをした話+アフリカ 8 つの楽しみ方』をはじめとする団体出版の書籍販売、本のなかに出てくる開発商品や作品の展示・販売を行いました。

コロナ感染症や紛争によりアフリカの生産者支援が困難な現状のなか、オンラインを使った「新しい形のマーケットづくり」を始めたこと、この活動のなかで、アフリカ文化やハンドメイド製品の認知度向上により、貧困削減など SDGs 達成を目指していることなどを説明しました。来場者からは開発商品やアフリカ全般に関してたくさんの質問やご意見をいただきました。



展示/販売の様子



東京市ヶ谷にある JICA 市ヶ谷ビル「地球ひろば」が会場。協力隊まつりは、毎年 4 月に開催されます。



「アフリカ理解プロジェクト」は、アフリカに派遣された協力隊 OV が社会還元活動として、2003 年にスタートさせた非営利団体です。



スタッフは、仕事を持ちながら週末などを利用してこの活動を行っています。活動に賛同するサポーターの力も借りています。



アフリカ理解を促進するための本づくりをしています。今年 2004 年 2 月に新刊ができました。



今年は 50 団体・グループが出展し、各ブース趣向を凝らしにぎやかで楽しいお祭りになりました。会場がもう少し広ければ体験コーナーなど参加者が楽しめるプログラムが組めたかもしれません。



アフリカでの商品開発について、興味関心がある人が多く、たくさん質問がありました。



新刊に掲載してるアーティスト&アーティザンの作品や商品。アフリカ黒檀の廃材を利用したマコンデ彫刻のアートなバターナイフや森の幸せカメレオン、ティンガティンガアートが人気でした。



開催 2 日間、人が途切れることがありませんでした。これからアフリカで活動するという人も多く、情報を提供したり、相談にのったりしました。



今年初めて、協力隊 OV のキッチンカー（2 台）が登場。マフェ（ピーナッツシチュー）とハイビスカスティー美味しかったです！日曜日は、館内の J カフェもオープン。



タンザニアのティンガティンガアーティストと商品開発したアップサイクリング王冠アトイヤリング、エチオピアの女性グループのハンドメイドアクセサリーなど



エチオピアのコーヒーの原種の森を守るフォレストコーヒーの販売。こちらの話は書籍『原木のある森コーヒーの始まりの物語 / エチオピアコーヒー伝説』に詳しく掲載しています。



東アフリカ民族布「カンガ」の着用体験。みなさん、よく似合っています！衣食住など身近なことからアフリカに関心を持ってもらえればと、ブース内で行っています。



ガールスカウトや学生のグループなど、今年は若い人たちの来訪が目立ちましたが、イベントの集客はまだ成功していないという数です。協力隊まつりの認知度をあげる工夫が必要です。



アフリカ理解プロジェクトの本をすべて持っているという方が何人か来られて、とてもうれしく思いました。と同時に身の引き締まる思いです。これからも期待に応えられる本づくりを目指します。



2日間、大勢のみなさんにお立ち寄りいただきました。アフリカに関心を持つ方たちが年々多くなっていると感じます。課題だけでなくアフリカの可能性についても発信し、より良いパートナーシップを築いていきたいと思ひます。

<来訪者の声>

モノと写真を並べてブースに置くことで、単に「モノ」を販売するのではなく、海外の「写真」を掲示するだけでもなく、そのあいだに「ストーリー」が繋がる。これがアフリカ理解プロジェクトのブースの良さだと思う。

「ストーリー」を楽しみに来ている。

新刊の広報

今回、販売した新刊です！

第1章は、モノづくりの話です。

アフリカ各国は、いま観光産業に力を入れており、政府も伝統的な工芸品や土産物産業の育成に積極的

です。人の手でつくる手工芸品は、設備投資に資金がかからないうえ、多くの雇用を生み出します。私たちは今から13年前、アフリカの小さな生産者グループとモノづくりをはじめました。そのなかで「モノづくりは人づくり」でもあることなど、多くの知見を得ました。新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、観光客を失い収入が激減したアーティストやアーティストとオンラインを活用し、世界中どここの国や地域からでもできる生産者支援もはじめました。第1章では、アフリカでの「モノづくり」や「ボーダレス時代の新たな支援の方法」の経験と学びを共有しています。



す。



第2章は、アフリカの楽しみ方の話です。日本で取り上げられるアフリカの情報は限定的で、アフリカの自然や、文化、食生活など、普通の人の暮らしを伝える情報はとても少ないのが現状です。多様なアフリカを知って欲しい、見つけて欲しい、そう願う話題を集めました。また、この章には私たちの講座で人気の高かった「体験」もたくさん掲載しています。いろいろな体験を通して、アフリカを身近に感じてもらえれば嬉しいです。

最後にこの本は、アーティストと構想を練り、アーティストが描き下ろした原画をふんだんに使った参加型の本です。そのため本の構想から、5年の時が過ぎました。

アフリカには“ゆっくりゆっくりバナナは熟れる”ということわざがあります。本書が おいしく熟したバナナとなり、これからアフリカに旅立つ人たちの糧となれば幸いです。